

<概要>

平成24年2月18日(土)同志社大学において開催した。テーマを「見ることでわかる、コミュニケーション」とし、見ることを活かした最近のパソコンやタブレット端末を用いた教育や支援の方法を中心に、最新情報や即実践で使用できる教材を紹介した。

<要旨>

テーマ1：「PICシンボルを活用したICT教育環境の未来に向けて」

発表：清田公保（熊本高等専門学校人間情報システム工学科）

藤澤和子（京都府立南山城支援学校）

要約：

シンボルは、国や世代を超えて共通に利用できる人の感性にもっとも近いコミュニケーション手段のひとつです。近年におけるPCやSNSに代表されるネットワーク網を活用した世界に広がるコミュニケーションのユニバーサル化構想について、PICの活用事例と最新のコンピュータ技術を用いた新しいPIC利用法の紹介を交えて考察しました。

テーマ2：「災害時のコミュニケーションボードの配布状況と新作PIC」

発表：小林美津江（大阪府立金剛コロニー）

要約：日本PIC研究会などで作成した災害時コミュニケーションボードの紹介と東北地方への配布状況の報告、作成したシンボル35個（新作PIC16個）などの紹介を行いました。また、今後の課題などを提起しました。

テーマ3：「バージョンアップしたNEWピクトプリントの紹介」

発表者：塩見ちあき（株式会社コムフレンド）

要旨：

PICシンボルのデータベースソフトである、「ピクトプリント」が、ver3.0にバージョンアップしました。内蔵シンボルが700語増加し、複数画像の

一括取込機能など、機能面でもさらに使いやすくなりました。実際のソフトをご覧いただきながら、新しくなった「ピクトプリント」の詳細をご紹介します。

テーマ4：「高齢者や弱視者にも見やすい・わかりやすい PIC」

発表者：加藤俊和（非営利活動法人 全国視覚障害者情報提供施設協会）

要旨：

ピクトグラムとして共通に使用する際に重要なことは、“視力の正常な方”だけでなく、「その情報を必要とする人がだれでも理解できること」です。まずは高齢者の方々、さらには、ロービジョン（弱視者）と言われる方々にとっても理解がしやすいように、「立体的な表現はなるべく避け、共通理解ができやすい単純な形状で、白部分も黒部分も各部の線の太さや面積を一定以上の大きさとして表現する」などの配慮が望ましいです。

テーマ5：「視覚シンボルと漢字の認知と処理についての心理学的考察」

発表者：井上智義（同志社大学）

要旨：

視覚シンボル PIC の創始者、カナダのマハラジ氏が初来日した際、「日本で視覚シンボルがあまり使われていない理由は、日本にはひとつの文字でひとつの意味を示す漢字があるからなのだろうか？」という素朴な疑問を投げかけられました。今回の発表では、漢字や視覚シンボルを人間が処理するときに、アルファベットや仮名とは、異なる処理をしていることを複数の心理学実験を紹介することで、視覚シンボルの特徴について考察していきたいと考えました。

テーマ6：「iPadを使ったコミュニケーションエイドの紹介」

発表者：槇場政晴（大阪府立茨木支援学校）

要旨：

VOCA（Voice Output Communication Aid）が開発され、久しいが VOCA は、

専用機械を中心に開発が進められてきました。そのため、価格もかなり高めに設定されてきました。しかし、近年、携帯端末（タブレット型 PC）が、急速に普及するようになり、その携帯端末で利用できるコミュニケーションエイドが開発されるようになりました。ここでは、iPadのアプリとして開発中のコミュニケーションエイドの紹介をし、タブレット型 PC を利用したコミュニケーションエイドの可能性についてご報告しました。

テーマ7：「すぐに作れる、すぐに使える PIC 教材の紹介」

発表者：藤澤和子（京都府立南山城支援学校）

岡田さゆり（滋賀県立野洲養護学校）

「あそんでつくってコミュニケーション！PICシンボルとJIS絵記号を活用した特別支援教育のための教材集」に掲載されているものや、最近の実践で作成したPICシンボルの教材を紹介しました。藤澤からは、よみものの教材、劇の台本を、岡田からは、スケジュール、朝の会での活用、校外学習などのしおりやワークシートを紹介しました。